

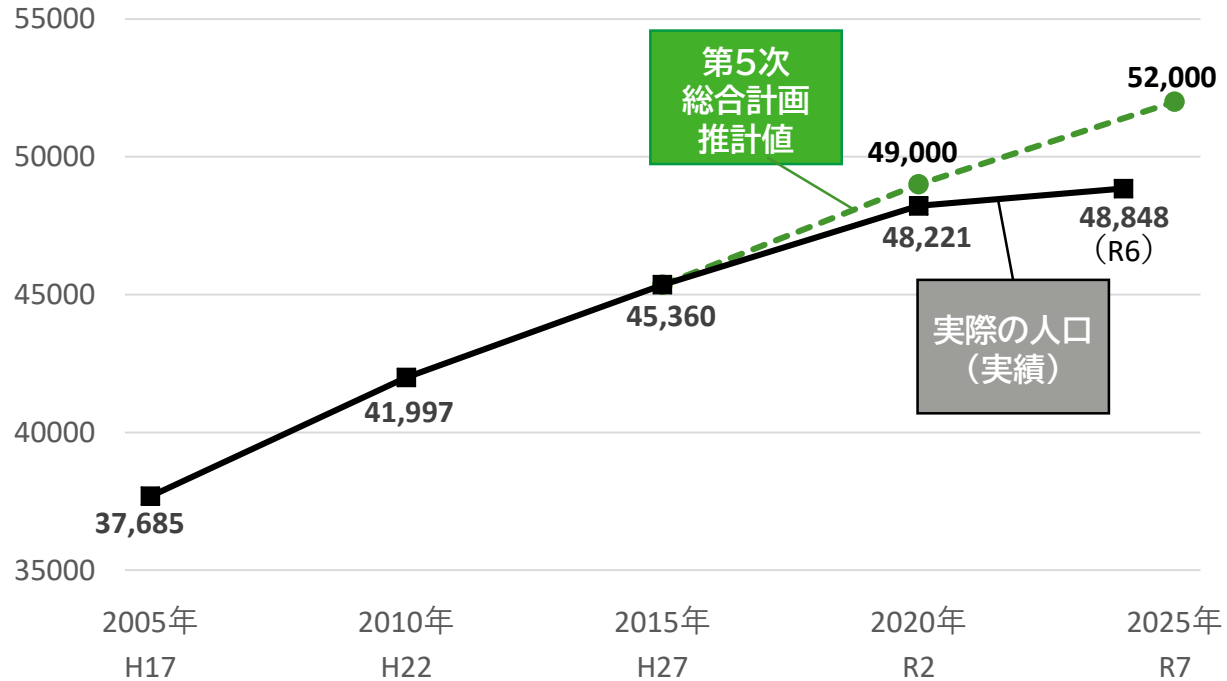
# 人口推計について

## 人口推計の目的

第6次総合計画の策定にあたり、将来の人口動向等を推計し、計画の前提となる人口規模などから課題を明らかにするとともに、適切な施策の方向性を検討するための基礎資料とすることを目的とします。

# 第5次総合計画での人口推計

コロナの影響等により、推計人口と実際の人口がかけ離れる結果となりました。



	国勢調査			令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
	平成17年	平成22年	平成27年		
第5次総合計画	37,685	41,997	45,360	49,000	52,000
実績				48,221	(令和6年実績) 48,848
差	—	—	—	▲ 779	▲ 3,152

## 第6次総合計画での人口推計の方法

### 第5次総合計画の 推計方法

・人口推計の際の一般的な方法である  
コホート要因法により、直近の移動率  
(H22～H26) を使って、推計を行った。

※ コホート要因法・・・各年齢階層の人口を基にして、出生率、死亡率、移動率を考慮しながら、将来の人口を推計する方法



### 第6次総合計画の 推計方法

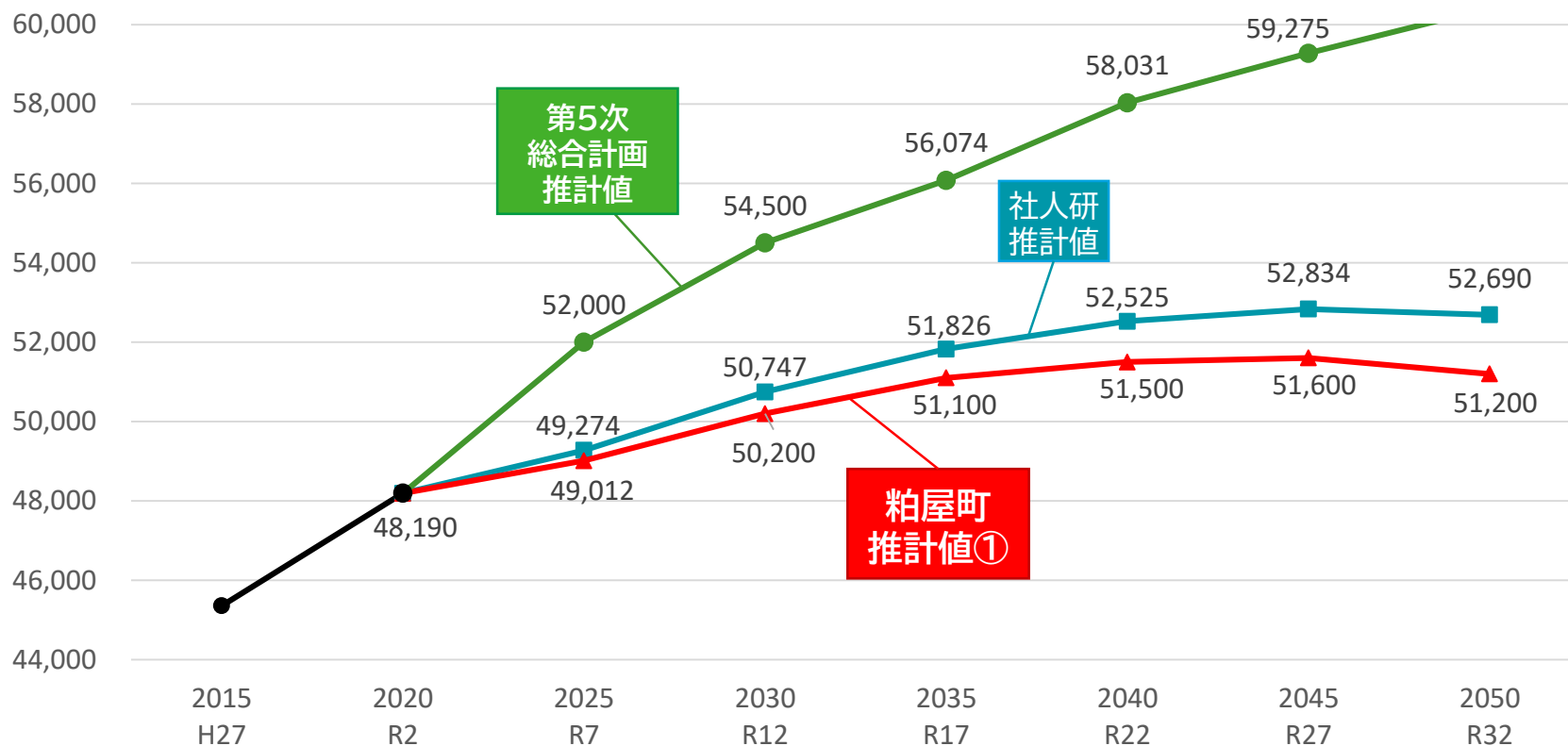
・国の研究機関である**国立社会保障・人口問題研究所**と同じ推計方法で、直近の移動率(R2～R6)を使い、出生率等の仮定値を設定して、推計に幅を持たせる。

※ 国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研という。)の推計方法・・・コホート要因法+国全体の将来の人口減少率を加味して補正

※ 社人研の推計は、過去15年間の国勢調査の移動率(H17～R2)を使用

## 粕屋町推計値①(出生率等の仮定値の設定なし)

出生率等の仮定値を設定しない場合の推計では、社人研推計を下回る結果となりました。

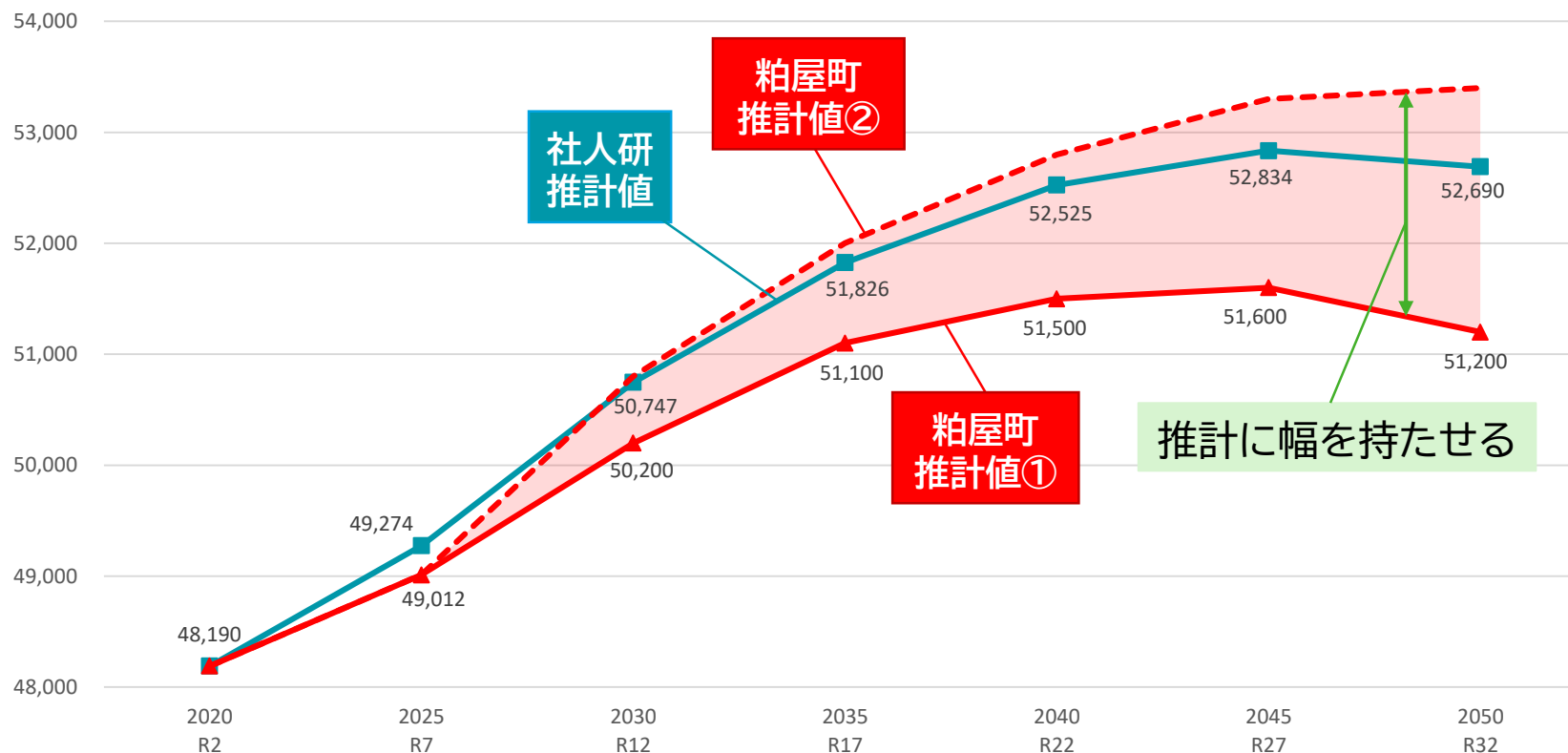


- ・第5次総合計画推計：計画策定時に推計したもの ※2035年(令和17年)以降は総合戦略の人口ビジョンによる
- ・社人研推計：国の研究機関が2020年(令和2年)までの国勢調査人口実績などを基に算定した推計（前回審議会提示）

## 粕屋町推計値②(出生率等の仮定値の設定あり)

これからの第6次総合計画の取組を踏まえ、出生率等の仮定値を設定することで、推計値に幅を持たせることとします。

- 推計値①は、過去から現在までの推移を将来に伸ばしたものであり、今後も現在と同じ水準の取組しか実施しない場合の推計人口であるが、今後の取組によって、推計に変動が生じることとなる。
- そのため、合計特殊出生率（自然増の取組）や流入人口（社会増の取組）の仮定値など、諸条件を設定して推計（推計値②）を行い、幅を持たせた人口推計値とする。

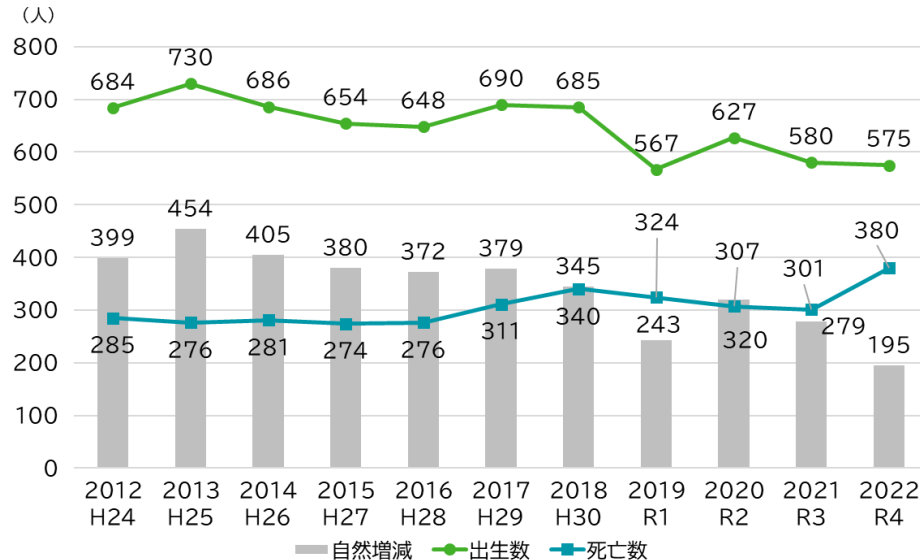


# 仮定値(出生率)の設定の考え方

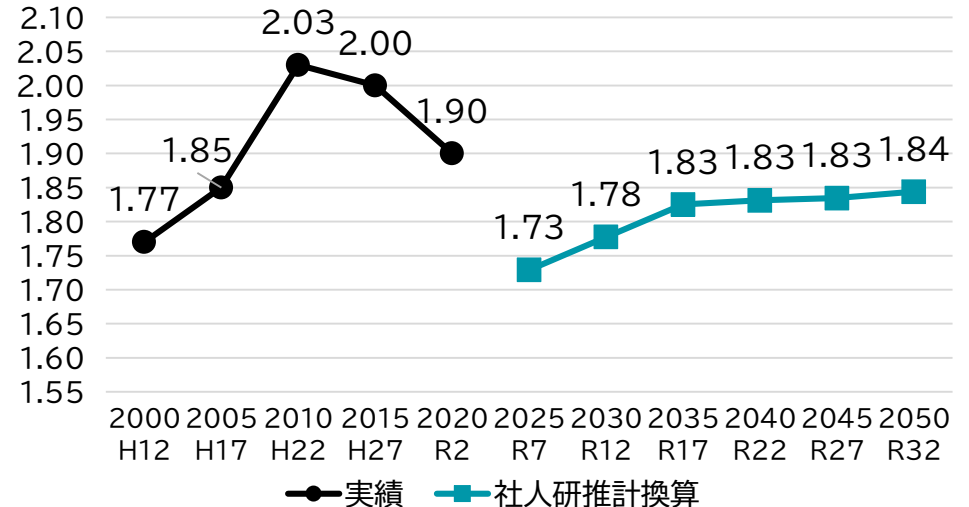
合計特殊出生率の伸びを仮定し、推計値に反映します。

- 粕屋町の合計特殊出生率は、近年、低下傾向にあるものの、全国トップレベルの水準を維持している。
- 合計特殊出生率は、子育て支援策の充実などによって、出生を増加させることで向上させることができる。
- 人口を維持できる合計特殊出生率の水準は2.07であり、この水準や粕屋町の現状値を勘案し、合計特殊出生率を検討する。

## 出生と死亡による自然増減の推移



## 合計特殊出生率の実績と社人研の推計



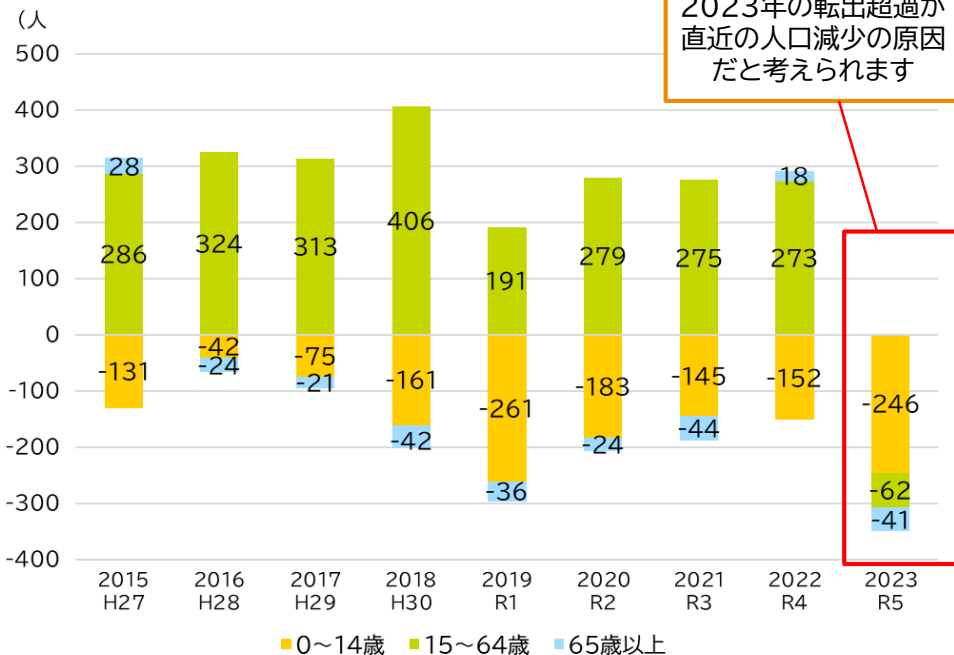
出典: 社人研「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

# 仮定値(流入人口)の設定の考え方

流入人口を仮定し、推計値に反映します。

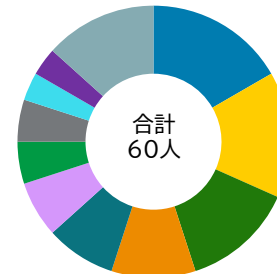
- 2022(令和4)年までは転入超過であったが、2023(令和5)年に転出超過に転じている。
- 住宅用地が少ないという現状から、土地区画整理事業など住宅用地の確保によって流入人口の増加を目指す。
- 計画されている土地区画整理事業の計画人口などから流入人口を検討する。

## 年齢階級別人口移動の推移

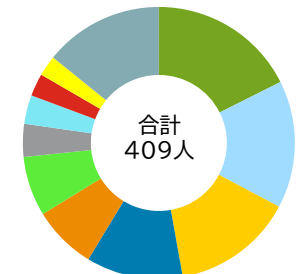


## 転入・転出数の地域別内訳(2023年)

転入超過数



転出超過数



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」